



鎌田先生

専攻分野～哲学・公共哲学系

授業で主に扱うテーマ

「共生と公共性の哲学」を共通テーマとし、ひとり一人が自主的に選択した研究テーマを深める(→卒論)。同時に、人文・社会科学の主要理論を学び、知の世界全体のネットワークを築く能力(=総合的知性)をみがく。ゼミの教科書やワークショップなどのテーマはゼミ生の合議によって決めるが

▼現代社会の政治観・社会観・家族観・男女観・教育観・人生観 ▼人間環境と自然環境の倫理学

▼日本&世界の伝統思想や伝統文化、などに関するテーマがよく取り上げられる。

授業のスタイル

各回のゼミの準備から当日の運営まで、ゼミ生が自主的にに行い、ゼミは活気に満ちています。もちろん鎌田も懸命に議論に加わります。運営は研究演習ⅠとⅡが相互乗り入れで行うので、メンバー間の相互信頼が育ち、先輩から後輩への知のスキルの継承が円滑に行われます。

ゼミ生に求めること

クラブ活動やスポーツに学生生活を賭ける人がいるように、学生生活を知のトレーニングに賭け、知への愛に献げる人がいたってよいではありませんか。今現在の目先の欲求や利益だけに心を向けるのではなく、遙かな過去、遠い未来、広い世界の人と文化と自然の多様性に視野を向けて、理想と希望をつむぎ出す未来志向の人になって欲しいと思います。

ゼミ生の卒業後の進路

理想系・理論系のゼミということから、毎年何人かは大学院に進学したり、公務員、教員、新聞記者になるが、人数的には、IT、金融、製造など一般企業に就職する人の方が多い。幅広い教養と、知的身体的負荷に耐える訓練ができていますので、就職氷河期に強さを発揮するゼミだと思ふ。

ゼミのアピールポイント

鎌田ゼミは知への愛(philosophia)で満ち溢れ、自己と世界についての絶えざる発見があります。私も人生を研究に賭けた人間の一人として、命がけの知的冒険の魅力を皆さんと分かち合いたいと願っています。

好きな言葉

真理を求めている人を信じよ。
しかし、真理を見いだした人を信じるな。
(アンドレ・ジッド)

愛読書

「愛」読といえるかどうかは分からないけれど、ぼろぼろになるまで何十回も読んだ本は、カント著『純粹理性批判』。

「総合政策の100冊」には以下の本を推薦しています。ショーペンハウアー『知性について』、ミヒャエル・エンデ『モモ』、アンドレ・ジッド『狭き門』、梅原猛、稲盛和夫『人類を救う哲学』、三島由紀夫『春の雪—豊饒の海—第一巻』

趣味

趣味と呼べるものは、音楽(オペラ・ミュージカル鑑賞、フルート演奏、作曲編曲—着メロもちろん自作)、歴史散歩(現在、織田信長が討死した京都旧本能寺敷地跡に居住)と自然散歩(15年住んだ南ドイツの森が一番)。しかし、本当の趣味は、哲学研究と大学教育。人生は仕事と趣味がシームレス。



来年のゼミ生へ一言

ドイツなどの大学での長い授業経験を踏まえ、国際的に通用する知性と感性とを身につけるようなゼミ運営に努めます。